

# 指導資料



鹿児島県総合教育センター

## 社会 第111号

—小学校，特別支援学校対象—

平成21年 5 月発行

### 空間認識の基礎を育成する地図指導の在り方

平成20年 3 月に公示された新学習指導要領には，地域社会や国土に対する理解を一層深め，主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けることを重視して，地図帳や地球儀の活用を一層重視することが明記されている。

かつて小学校第 3 学年の社会科学習で，学校周辺の様子を調べさせるために，白地図に特徴的な建物や施設を記入させながら観察，調査する指導を行った。その際，自分が白地図上のどこにいるのかが分からない子どもや，ポイントとなる建物や施設を，道路の真ん中に記入する子どもがいた。これは，実際の社会的事象を平面に置き換える作業，つまり，空間認識が十分に育っていないことが起因していると考えられる。

地図指導では，身の回りの三次元の空間を，二次元の平面に置き換えて認識させることが必要であり，中学年の発達の段階を十分考慮して，段階的に指導しながら，空間認識を形成することが大切である。

そこで本稿では，中学年において，体験的な活動を取り入れながら空間認識の基礎を育成する，効果的な地図指導の在り方について述べる。

#### 1 中学年における地図指導のねらいと学習内容

中学年では，地域の人々の社会生活の様子をとらえ，その特色や相互の関連などについて考えたり，表現したりするために，地図の効果的な活用が位置付けられている。

中学年における地図指導のねらいと学習指導要領解説（社会編）に示された学習内容を表 1 のように整理した。

表 1 中学年における地図指導のねらいと学習内容

<p>[ねらい]</p> <p>※ 体験的な活動をとおして空間認識の基礎を育成し，地図の効果的活用の基礎・基本を身に付ける。</p> <p>※ 地図や各種の具体的資料を効果的に活用し，地域社会の社会的事象の特色や相互の関連を調べる。</p>
<p>[学習内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>方位や主な地図記号を理解し活用する。</li> <li>身近な地域の様子を絵地図や地図記号を使った平面地図にまとめる。</li> <li>身近な地域や市町村の位置や土地の様子，公共施設，交通の様子などを白地図に書き表す。</li> <li>地図帳の索引の見方，引き方を身に付ける。</li> <li>くらしに関わる各施設〔市役所（町村役場），学校，警察署，消防署，博物館，病院など〕の位置を白地図に書き表す。</li> <li>県内の市町村や主な都市，全体の地形，交通の様子などを白地図に書き表す。</li> <li>47都道府県の名称と位置を地図上で指摘できる。</li> </ul> <p>* 本稿では，下線部を中心に説明する。</p>

## 2 空間認識の基礎を育成する段階的な地図指導の実例

子どもたちの空間認識の基礎を育成するためには、表2のような段階的な指導が大切である。

表2 空間認識の基礎を育成する段階的な指導例

- |                             |
|-----------------------------|
| ① 身近な空間を使った体験活動             |
| ② 高い位置から社会的事象をとらえる活動        |
| ③ 地域の社会的事象を観察、調査する活動        |
| ④ 立体物を取り入れた活動               |
| ⑤ 地図記号を用いて、絵地図から平面地図に移行する活動 |

### (1) 身近な空間を使った体験活動の段階

教室のような身近な空間を使った活動から、校舎、学校敷地など、活動範囲を徐々に広げた表3のような段階的な体験活動が大切である。

指導の際は、教室内の自分の机と友達の机、自分の教室と他の教室との位置関係などを意識させ、記録させることが大切である。

表3 身近な空間を使った段階的な体験活動例

- |   |
|---|
| ① 教室内の座席図を基に、自分の机と友達の机との位置関係を確認し、指定されたコースや自分で決めたコースを座席図に記録する。         |
| ↓   |
| ② 校舎内の教室配置図を基に、自分の教室と他の教室との位置関係を確認し、指定されたコースや自分で設定したコースを教室配置図に記録する。   |
| ↓   |
| ③ 学校の敷地図を基に、学校探検を行い、自分の教室と他の教室や施設との位置関係などを確認し、気付いたことや分かったことを敷地図に記録する。 |

### (2) 高い位置から社会的事象をとらえる活動の段階

学校周辺の探検活動などの観察、調査

を行う前には、高い所から学校周辺の様子を観察させ、学校周辺の様子や学校と施設や建物との位置関係を把握させる。その際、ポイントとなる地形や建物を四方位ごとに観察カードに記録させることによって、探検活動に見通しをもたせたい(図1)。

指導の際は、校区地図や航空写真などを活用して、観察した様子を地図上でイメージできるようにしたい。

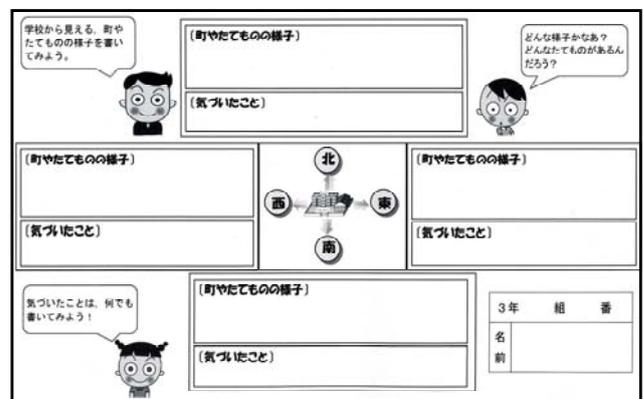


図1 観察カード例

また、ここでは四方位の理解も必要であり、次の段階的な指導が大切である。

### 四方位の指導

四方位は、社会生活との関連が深いものであるが、高学年でも、十分に定着しているとは言えない実態がある。

図2は、平成19年度の第5学年社会科「基礎・基本」定着度調査の問題である。



図2 H19「基礎・基本」定着度調査(小5社会)

「鶴岡市の市役所から見て、羽黒山はどちらの方角にありますか。」という基本的な問題であるにもかかわらず、通過率は、67.6%であり、誤答のほとんどが東西を逆に答えていた。

そこで、生活体験と関連させた表4のような指導が有効であると考える。

表4 四方位の指導例

① 身体の向きや動作で認識させる。
・ 方位磁針を使って、方角を確かめさせる。
・ 右手を東に合わせると、左手が西、顔が北、背中が南となることを認識させる。
② 教室環境を整備する。
・ 教室の壁面に四方位カードを常掲する。
③ 方位を表す地名や、名称を意識付ける。
・ 「西校舎」「北門」「東玄関」など、身近な名称の意味を意識付ける。
④ 地図学習では、四方位を記入した透明シートを作成し、地図に当てて方角を意識付ける。

### 八方位の指導

さらに八方位については、第4学年修了までに身に付けることが、学習指導要領解説にも明記されている。四方位の理解が定着したら表5のような指導を取り入れたい。

表5 八方位の指導例

① 教室環境を整備する。
・ 教室の壁面にある四方位のカードに加え、四隅に八方位のカードを常掲する。
② 八方位を記入した透明シートを活用する。
・ 地図指導の際には、透明シートを地図に当て、方位を意識付ける。
③ 地図に掲載してある四方位記号に、八方位を書き込ませる活動を継続して行う。
④ 略地図や地図帳を基に、八方位に関する問題に取り組ませる。

### (3) 地域の社会的事象を観察、調査する活動の段階

地図から実際の様子をイメージしたり、地図に書き表したりする学習では、実際

に身近な地域を歩いて、観察、調査する表6のような体験活動が基盤となる。

表6 観察・調査する体験活動例

① 拡大白地図を基に、事前にコースや記録方法を確認する。
・ 事後の学習に生かすために、公共施設を位置付けたコースを意図的に設定する。
② 活動の途中では、定期的に現在位置を白地図上で確認する。
・ 事後の学習で活用するため、ポイントとなる施設や場所を写真で記録する。
③ 活動後、気付いた様子をカードに記入し、拡大白地図に貼り付ける(図3)。
・ カードに記録する際は、主な建物や施設を共通した記号や色別に分けると、分かりやすい絵地図が作成できる。



図3 活動後のまとめの例 [小学社会] 3・4上 教育出版

なお、拡大白地図は、絵地図作り用と平面図作り用の2枚用意しておく、後の学習に生かすことができる。

### (4) 立体物を取り入れた活動の段階

絵地図を見て実際の様子をより実感させるために、主な施設を立体で置き換えると、地図上での位置関係が理解しやすくなり、空間認識が育ちやすくなる。

学校や主な公共施設、特徴的な施設などを対象に立体で配置し、観察、調査したコースにしたがって、それぞれの位置関係を把握させたい。

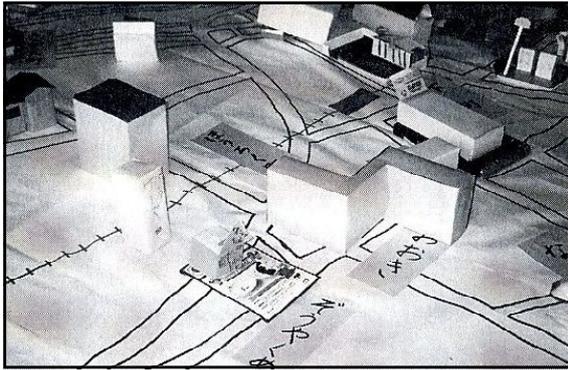


図4 立体物を使った絵地図 寺元潔著「地図の学力」明治図書

(5) 地図記号を用いて、絵地図から平面地図へ移行する活動の段階

書いた人によって表し方が異なる絵地図から、誰でも理解できる共通的な平面地図への移行は、地図指導の重要なポイントである。

そのために、社会的事象を共通の記号で表す地図記号の導入が大切になる。

#### 地図記号の指導

絵地図から平面地図への移行においては、施設や建物、土地の様子を表す地図記号の指導が必要となる。地図記号を習得することで、地図から情報を読むことができるようになるとともに、共通性をもつ地図が作成できることを理解させることが大事である。

主な地図記号は、社会的事象の形を基にして作られたものが多いので、指導の際は、その記号の成り立ちも踏まえて、簡単な地形図を読んだり、白地図に書いたりして定着を図りたい。

#### ○ 地図記号の成り立ちに関する参考資料

- 国土交通省国土地理院「子どものページ」  
<http://www.gsi.go.jp/>
- TOSSランド「教科・社会・その他」  
<http://www.tos-land.net/>

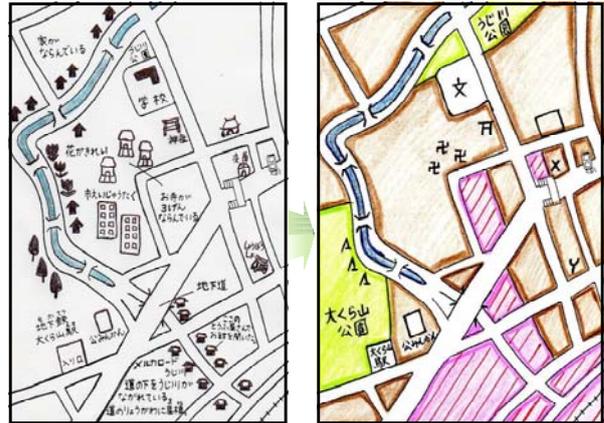


図5 絵地図から平面図への移行例 「新しい社会」3・4上東京書籍

図5は、絵地図から平面地図への移行例である。

また、鳥瞰図や立体地図、航空写真などを活用すると、絵地図から平面地図へのスムーズな移行を図ることができる。

学習指導要領第3学年及び第4学年の目標に示されているように、地図を効果的に活用し、社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てる上で、段階に応じた地図指導はとても重要である。その上で、体験的な活動とおした空間認識の育成は、地図学習の基盤になると考える。このことが、高学年における地図や地球儀、統計、年表などの基礎的資料を効果的に活用できる知識や能力につながっていく。

各学校においては、これまで述べてきた指導の在り方を参考に、地図を効果的に活用し、社会的事象を適切に見たり考えたりする力を育てていくことが大切である。

#### 〈参考・引用文献〉

- 文部科学省『小学校学習指導要領解説』社会編 H20.8 東洋館出版
- 『楽しく学ぶ小学生の地図帳』 H16 帝国書院
- 寺元潔著『地図の学力』 H14 明治図書

(企画課)